

ひょうご 県知協

NEWS

〈兵庫県知的障害者施設協会機関紙〉

発行 一般社団法人
兵庫県知的障害者施設協会
〒651-0062
神戸市中央区坂口通2丁目1-1
兵庫県福祉センター5階502号室
TEL (078) 862-6026
FAX (078) 862-6082
E-mail: hyogo-kenchikyo@dance.ocn.ne.jp
発行責任者 松端信茂

副会長就任のご挨拶

副会長 高野 康彦

今年度より、副会長を仰せつかりました三田谷治療教育院の高野です。

私は、児童発達支援部会の部会長をさせていただいておりますが、各部会を代表して、前任の齋藤さんより引き継ぎました。どうぞよろしくお願いいたします。

私の勤める法人施設では29年前の阪神淡路大震災で甚大な被災を受けました。未曾有の出来事に直面し不安が襲い掛かる中、当時の兵庫県愛護協会(現兵庫県知的障害者施設協会)はじめ全国の会員施設の職員の方々には大変助けられたことを、今もって忘れられない経験となっています。

県内の施設からは、発生直後から大量の救援物資を背負って駆けつけたり、大量の衣類を洗濯するために毎日往復して下さる施設など、語りつくせぬほどのお世話をいただきました。

また近畿地区愛護協会(現近畿地区知的障害者施設協会)は、施設丸ごと疎開するためご尽力いただき、大阪愛護協会(現大阪知的障害者福祉協会)で約1カ月半、こども達を引き受けてくださりました。

日本愛護協会(現日本知的障害者福祉協会)も三田谷学園をはじめ、県内施設への支援に全国各地より職員を派遣し支援に当たってくださいました。

初めての大災害でも迅速で手厚い支援がなされたことは、当時の愛護協会の仲間として平素より良い関係があったからこそだと思います。

そのあと起こる大災害への対応も、阪神淡路大震災の経験が生かされたと思っています。

私も長年、協会の役員などで関わらせていただきましたが、同じ法人施設の中だけの関係を超えて、たくさんの諸先輩方や仲間との交流は楽しくもあり、今の自分を育てていただいたと大変感謝しています。

さて、障害福祉の現状には様々な課題があります。障がいのある方々の暮らしを支えるためには継続して安定した支援体制が必要です。制度がますます複雑化され、役割分担とはいえ縦割りのサービスを複雑に組み合わせた生活を支えるためには、サービス間の連携、事業所間の連携はたいへん重要です。

今年度の新たな単価改定においては、重度の障がいのある方も地域や施設での活動や暮らしにおいてその権利をしっかりと守っていけるように目指すものとなっています。しかしながら各事業所においては、報酬や加算を得るために、人材の確保と育成、体制作りに課題を感じています。

兵庫県知協としても今年度の事業計画の主なものとして、

- 新研修体系による協会研修の実施
- 強度行動障害スーパーバイザー養成事業の実施

○報酬改定等による課題や意見を整理して政策提言を行うなどとしています。

自然災害時のみならず、普段の連携においても良好な関係を持つことは、その地域で暮らす障がいのある方々が安心して支援を受けるためにも大切なことだと思います。

また、そこで支援にあたる職員にとっても、大切な仲間づくりの場になればよいと思います。

どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

神戸地区の報告

神戸地区連絡代行 丸山 博徳

神戸地区は、これまでと同様に神戸市知的障害者施設連盟(以下、市知連)として事業活動を行っています。

加盟施設の拡大を目的にこれまでの52施設、事業所に加えて新たに2事業所が加盟し、合計54施設・事業所で令和6年度をスタートしています。

また主となる事業として神戸市福祉局からの「神戸市障害支援区分判定審査会委員」を選出して、支援区分審査会に派遣を行い、円滑な区分判定が行えるようにする等、行政機関や関連機関からの依頼に継続的に協力対応しています。

また「神戸市高齢者介護士認定講習」(高齢分野)への参加や、「障害者施設職員キャリアアップ検討会」(障害分野)への参加等、他の分野とも連携した事業にも取り組んでいます。

一方、昨年新型コロナウイルスが5類への移行後、市知連単独での研修や会議等は、現在でも新型コロナウイルス発生前の水準に戻すことができておらず、課題となっています。更なる連盟機能の具体化を図るために会則の改定も行ったので組織体制の強化と共に令和6年度は、神戸市の知的障害福祉の質の向上を目指して対面による集合研修や施設長会議等の定例会議を計画的且つ積極的に企画、順次実施して制度学習や事業所見学等の研修事業、障害者スポーツ大会やジョフルコンサート等のイベント事業への協力も継続的に行い、活気のある市知連を目指していきたいと考えています。

播淡地区の報告

会長 天野 一雄

新型コロナウイルス感染症が5類に移行して1年以上が過ぎ、マスク姿の人も減ってきていますが、播淡地区の事業所では感染拡大防止のため、依然マスク対応で支援をしているところがほとんどです。7月以降、再び感染拡大傾向にあるのと、又、昨年以上の猛暑となり、各事業所において今年度事業に支障が出てきているところもあるのではないかと思います。早くこの状況が終息出来ることを願うばかりです。

さて、令和6年度の播淡地区の事業計画ですが、今年度も新型コロナウイルス感染症対策を講じながら進めて行きたいと思います。既に終えてしまった事業もありますが、報告させていただきます。

5月31日に第36回ばんたん親善運動会を計画していましたが、雨天中止になってしまい、スタッフはじめ関係者一同、残念な気持ちになりました。昨年度、新型コロナウイルス感染症が第5類になって初めての開催となり、大

いに盛り上がっただけに、今年度も楽しみにしていたのですが、天気には勝てませんでした。

利用者が活躍する場としては、11月29日(金)～12月2日(月)の4日間、「姫路市民プラザ イーグレ姫路(予定)」にて、第2回ばんたん・ゆうあい作品展を開催します。利用者達が思い思いの作品を製作展示するもので、去年は関係者のみならず、一般の方も多数の方がご覧いただきました。今年も沢山の力作を展示しますので、乞うご期待ください。

職員、施設長にはスキルアップを兼ねた研修会を予定しています。対面研修で考えており、交流、繋がりのかっかけになればと考えております。

利用者が生きやすい暮らしが実現できるよう、施設長、職員一同、各事業に取り組んでいきたいと思っております。

阪丹但地区の報告

事務局長 西條 篤人

今年度は役員改選があり、5月9日開催の地区総会におきまして、下記の通り役員が選任され、それぞれ就任いたしました。(任期令和6年度～7年度)

会長	山岡 賢治	(一羊園)	
副会長	小林 弘典	(とよおか作業所郷・と一ふ)	
副会長	中川 宏之	(ななくさ育成園)	(新任)
事務局長	西條 篤人	(さつき)	
会計	関 真博	(みつみ学苑)	
監事	森 康祐	(塚口福成園)	
監事	仁頃 哲太郎	(ワークホームつつじ)	(新任)
監事	寺西 良介	(第1松の園)	(新任)
監事	石塚 寛	(ポプラの家)	(新任)
支援スタッフ委員	柴崎 涼子	(三田こぶしの園)	
支援スタッフ委員	井本 翔太	(ふれあいセンター)	
支援スタッフ委員	久保 直輝	(ドリーム甲子園)	(新任)

副会長退任 : 姫田 民也 (ななくさ育成園)

監事退任 : 丸山 和幸 (芦屋翠ホーム)

支援スタッフ委員退任 : 原 良介 (ドリーム甲子園)

今後も地区の発展に尽力いたしますので、皆様方のご支援ご協力をお願いいたします。

今年度も定例役員会と研修を中心に活動してまいります。前号の県知協NEWSにありましたが、今年度から「県知協研修のあり方検討会」での提言に沿って研修を企画することになり、今回阪丹但地区では新任監督職研修を担当します。8月29日(木)に武庫川女子大学教授の松端克文氏をお招きし、就任1～2年目の主任・課長・サビ管等を対象として、「利用者も、自分も、そして組織もエンパワメントするために」をテーマに、講演とグループ

ディスカッションをおこないました。役職者になると求められるものが増え、職員教育や支援、家族対応だけでなく経営に関する知識も必要になってきます。また上司と部下の板挟みで悩むことも出てくるかと思えます。そういった悩みを解消し、前向きな気持ちになれる研修になればと思います。

11月には兵庫県キャラバンを実施予定です。各圏域の施設・事業所を訪問し、圏域における現状や課題、政策提言等について意見交換を行なうもので、今年度は阪神北部地区(宝塚・三田・猪名川・伊丹)にて実施します。会場はななくさ育成園です。強度行動障害者支援や感染症対策、人材確保など、抱える課題は多岐に渡ると思えます。それらの課題や各施設・事業所の取り組み、成功例を共有し、今後につながるような場にしたいと思えます。

阪神福祉事業団との共催での公開事例発表会を今年度も行ないます。例年2月の開催でしたが、今年度は12月5日(木)の開催になりました。詳細は後日お知らせしますので、ぜひご参加ください。

活動報告

地域支援部会

部会長 岡本 征
副部会長 岸本 敏

今年度の全国グループホーム等研修会は近畿地区が担当年にあたり、役員会を経て兵庫県が開催場所として選ばれました。

令和6年9月12日(木)と13日(金)。場所は神戸メリケンパークオリエンタルホテル。ちょうど10年前も同じ神戸で開催され、こうした活動を通して兵庫県の魅力と港町神戸を全国にアピールしていきます。

さて、肝心の内容についてですが「どこまでやれるのか地域支援、どこへいくのかグループホーム」をテーマに、「本人が希望する地域生活を実現するために」を副題として、1日目は基調講演に武庫川女子大学の松端克文教授を迎え、その後、最前線で活躍されている方々によるシンポジウムを企画しています。

2日目は「特別な支援を必要とされる方の地域支援」、「グループホームってナニ?」、「ホームスタッフは地域生活支援のスペシャリスト」、「本人が希望する生活を実現するために」の4分科会を予定しており、日本全国から進歩的な取り組みを行っている事業所からの報告などワクワクさせられる中身の濃いものとなっています。

これからも脱施設化が進み、グループホームへの流れは続いていくと予想されます。そしてグループホームへの流れは障害者福祉だけでなく介護分野にも広がっています。人は皆歳をとっていきます。今、障害がなくても将来はグループホームを利用する可能性は誰にでもあります。そこで、もし自分が利用するとすれば「どんなグループホームを選ぶだろう」、「こんなグループホームだったら利用してもいいかな」、「あんなグループホームだと楽しいかもしれないぞ」など空想しながら参加していただくのもいかがでしょうか。



危機管理委員

県知協 事務局長 福西 堅固

危機管理委員は、新型コロナウイルス感染が日本を騒がせた令和2年頃より活動を開始しています。当時猛威を振っていたコロナ感染対策のため特命的な形で協会組織の1つとなりました。令和4年からは協会事務局が委員を務めています。

当時は未知の感染症への対応に会員施設・事業所も苦慮する中、兵庫県と対応の協議を開始しています。その後、会員からの実態把握のためのアンケート調査を実施し、市町担当事業所の設置、衛生物資備蓄基地(事業所)を県内に8か所、家族の罹患により介護者不在となった障害者の一時受け入れ施設の確保、施設クラスター等への応援職員の派遣システム等を確立した「兵庫県協カスキーム」を兵庫県と共同で作りました。それ以外にも日々の会員施設からの感染報告の集計と分析・(県との)共有、ガウン着脱訓練の実施、感染症対策研修やリモート会議環境の整備等も行ってきました。ご存じのように昨年5月にコロナ感染は5類へ移行となりました。その後、備蓄基地の物資の処分にも取り掛かっていますが、コロナ感染は株を変異し、時おり我々の生活や活動に支障を与えるものとして残っています。兵庫県では、新興感染症(新たな猛威を振るうような感染症)への対応として感染症予防計画の見直しを行っています。当協会からも協議委員として、これまでの経験と知的障害者ならではの対応を求めて参加しています。

感染症のことばかりを述べてきましたが、危機管理委員の役割は他にもたくさんあります。地震・火事・大雨・台風等の自然災害、BCP(事業継続計画)、介護事故への対応、虐待への予防・対応もその範疇に入るかと思えます。少しずつですが、これらの課題へも取り組んで参りたいと思います。

調査研究委員

委員 村上 弘晃

令和6年度、調査研究委員では「親なきあと」を見据えた障害者受け皿確保事業として、兵庫県福祉部障害福祉課よりニーズ調査の事業委託を受け、アンケート調査等を進めております。地域生活の実現に向け、特に重度障害者の暮らしにかかる現状・課題を把握し、今後の支援に繋げていくことを目的としています。

特に重度障害者の地域生活の実現に向けた具体的なニーズの把握や必要な住まいのあり方について、障害福祉サービス事業所(共同生活援助、施設入所支援、生活介護)等に対する調査を実施し、調査結果の分析等を行います。その調査内容を基に、有効な支援方策に県が繋げていくという流れです。

その他、上述した事業と並行してこれから進めていくものとして、兵庫県社協社会福祉政策委員会令和6年度政策提言活動助成事業があります。(県社協より助成金を頂き、福祉施策の提言につながるような調査及び研究をおこなうもの)

同事業の令和5年度には当協会会員の入所・通所・地域生活援助・障害児入所施設・通所施設・事業所。そして兵庫県内の相談支援事業所(児童を含む)を調査対象として「強度行動障害と認定されている障害児・者に対するサービス利用状況の実態把握を通じ、有効な支援方法または課題等の共有を目的としたアンケート調査」を実施しました。

そして、令和6年度は「兵庫県における意思決定支援ガイドライン」をつくることを目標に取り組んでいきます。

令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の基本的な考え方の中で、「意思決定支援の推進」が示されました。相談支援及び障害福祉サービス事業等の指定基準において、「事業者は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者の意思決定支援に配慮するよう努めなければならない」と明記され、サービス担当者会議及び個別支援会議には、障害者本人の参加が原則となり、本人の意向等の確認をすることが必要となりました。

利用者の希望する生活や課題等の把握(アセスメント)に当たり、利用者が自ら意思を決定することに困難を抱える場合には、適切に意思決定支援を行うため、当該利用者の意思及び選好並びに判断能力等について丁寧に把握しなければなりません。障害者が希望する地域生活を実現、継続するために、効率的かつ効果的に意思決定を行うことができるようすすめてまいります。

政策委員

委員 嵯峨山 悠

政策委員の嵯峨山悠です。今年度から古川政策委員の後任として、務めさせていただきます。まだ勉強不足で不安もありますが、少しでも貢献できるよう全力を尽くします。皆様の協力を頂きながら、政策委員としての取り組みを進めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度の兵庫県政策委員の活動としては、昨年度から継続している強度行動障害に関する人材養成の仕組みづくりのほか、重度の障がい者の暮らしに関する現状と課題、意思決定支援ガイドラインなどについても、各部会と情報共有し、県への政策提言を行いたいと思っています。

さて、令和6年度の報酬改定では、入所施設から地域への移行を促進するための加算が新設されましたが、一方で地域での生活基盤となるグループホーム(共同生活援助)については厳しい改定となりました。特に重度の障害者の対象としたグループホームは運営の厳しい状況が続いています。

また、関係者の強い要望で延長された食事提供体制加算や個人単位の居宅介護等の特例扱いについては、恒久化に向けた議論を深める必要があります。

ということで令和9年度の報酬改定に向けては、全般的な検証が必要です。

近畿地区の政策委員会では入所施設や共同生活援助、相談支援事業の制度についての議論を中心に進めています。また、各地域の実践を共有し、意見交換を行い、制度提案につなげていくことを共通認識としています。

今回新たに制度化された就労選択支援については、改定で大きく取り上げられている意思決定支援の視点も踏まえる必要があります。障がい者の多様な働き方についても今後議論が必要だと思っています。生き活きた人生のための充実した日中活動の積み上げがこれまで以上に大切にされ、また現在進められている芸術文化活動の推進も欠かせないものであると考えます。新しい視点での障がい者の発信力やコミュニケーション能力を高め、考えていける環境づくりが議論されるよう生産活動・就労支援部会の役員とも意見交換をしながら進めていきたいと思っています。

第18回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会及びスポーツ委員会活動

委員長 柴崎 博彦

第18回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会が5月11日から26日にかけて行われました。この大会は県内の障害者がスポーツを通じて体力の維持増進と社会参加意欲の高揚を図るとともに、県民の障害者に対する理解と認識を深め、交流を広げることを目的としています。主催は

- ・兵庫県
- ・兵庫県身体障害者福祉協会
- ・兵庫県手をつなぐ育成会
- ・兵庫県視覚障害者福祉協会
- ・兵庫県精神福祉家族会連合会
- ・兵庫県障害者スポーツ協会



陸上競技

そして兵庫県知的障害者施設協会でしたが、県立三木総合防災公園をはじめ、県立障害者スポーツ交流館、神戸六甲ボウルなどの会場のスタッフのみなさま、各種競技団体のみなさまやボランティアの方々のご協力とご支援をいただき実施できたことを、書面を通じて厚く御礼申し上げます。

昨年の12月ごろより県担当者、県知協事務局、スポーツ委員で今大会の準備を開始し、年明けからは各競技担当者も交え、会議や現地打合せなどを随時開催してまいりました。

今年度からは、身体・精神と同じ『e-ひょうご』という県のシステムを利用し、大会にエントリーしていただきました。昨年度からすでにオンラインでのエントリーを採用していましたが、いよいよ3障害とも同じシステムでのエントリーとなりました。特に大きな混乱もなく進められましたので、第19回大会からも使用していきたいと考えております。

知的の種目は8種目(バレーボールは出場者不足のため未開催)を実施し、894名が参加されました。大きな怪我やトラブル等なく、全種目終了しましたことをご報告させていただきます。今大会はコロナ禍前同様、有観客で行われましたが、開会式や表彰式の簡略化、参加人数・団体の減少などコロナの影響を引きずっている面もあり、物足りなさを感じられた選手もおられたと思います。この点につきましては選手のみなさまに満足していただける大会になるよう引き続き協議してまいります。また、現在別日で開催されている『陸上競技車いすの部』について、合同での開催も検討しています。実施すればより一層盛り上がる大会となりそうです。

今大会で優秀な成績を収められた選手が10月26日から28日にかけて佐賀県で行われる、第23回全国障害者スポーツ大会『SAGA2024』に参加されます。これまでの成果を発揮できるよう、ご活躍をお祈り申し上げます。

スポーツ委員としてのその他の活動としまして、今年度より兵庫県障害者スポーツ協会の理事に就任し、神戸市の『障害者スポーツ推進プロジェクト』の委員として参加させてもらうこととなりました。このプロジェクトは、特別支援学校等における運動部活動の地域連携・地域移行に向けた話し合いがもたれるようです。

また、8月9日に県庁で行われた『ユニバーサルなスポーツ施設検討会』にも委員として出席しました。こちら検討会は、『神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会』により広がったパラスポーツへの理解などのレガシーと、HYOGOスポーツ新展開検討委員会からの1.ハード・ソフト両面での現状調査の実施、2.圏域・市町域でのインクルーシブなパラスポーツ拠点づくりなどの提言を踏まえ、スポーツ施設の一層のユニバーサルデザイン化を目

指し設置されました。検討内容は、

①県内スポーツ施設等へのバリアフリー化、障害者の利用状況等のアンケート結果を踏まえた論点整理

②論点整理及びスポーツ施設の現地視察から見えたユニバーサルなスポーツ施設としての課題整理と最適な施設のあり方の方向性提示、支援策の検討を行うこととされています。今回の検討会には齋藤知事も参加され、今後は県内の体育施設の視察も行う予定となっております。

県知協スポーツ委員として、知的障害の方にも使いやすい施設になるよう提言していけたらと考えております。



ソフトボール



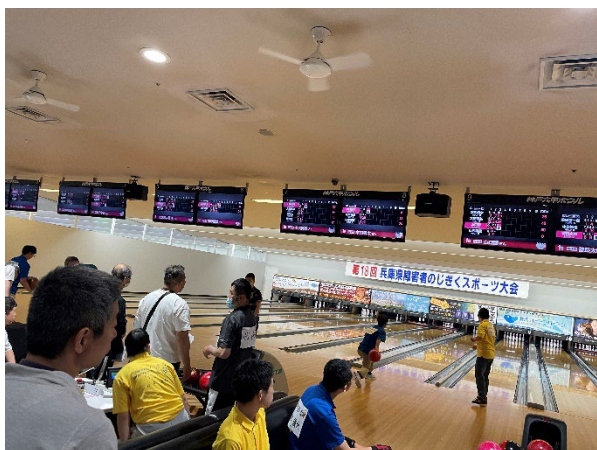
フライングディスク



卓球



バスケットボール



ボーリング



サッカー

広報委員が行く事業所訪問 No3

社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団

多機能型事業所あゆみの部屋 担当 藤田 崇之様、山川 まどか様にインタビュー！

聞き手: 広報委員長 澤村 友也



○あゆみの部屋の特徴は？

健康で楽しみのある生活を目指すと同時に生産活動や受託作業等利用者のニーズに合わせたサービス、作業活動を提供しています。

○沿革

- 平成3年4月 淡路養護学校(現 あわじ特別支援学校)の親の会「子毬」が五色町内に民家を借り「あゆみの部屋」の活動開始。
- 平成6年4月 五色町立小規模授産施設「あゆみの部屋」を堺保育園の敷地に設立。
- 平成7年4月 ACT 情報センター1階に移転
- 平成18年2月 市町村の合併で町立から洲本市立小規模授産施設「あゆみの部屋」へ移行
- 平成21年4月 兵庫県社会福祉事業団 五色精光園へ事業譲渡し、「多機能型事業所あゆみの部屋」として開所
- 令和5年4月 多機能型事業所コスモスと統廃合
新生「あゆみの部屋」として生活介護 25名、就労継続支援 B型 15名に定員変更

○生活介護

多様な活動を通じて、健康で楽しみのある生活を送っていただけるよう支援を行っています。

★活動内容★

- ・地域の民間企業から提供して頂いている靴下の端切れを使用した「ラグマット」が人気商品
- ・英字新聞を使用し作成したオシャレなエコバックも販売。
- ・自彊術、健康体操:ヨガのように身体を動かす健康法を外部講師に来所してもらい活動
- ・外出活動・調理実習・文化活動(映画鑑賞等)もあり

◆利用定員: 25名

◆利用日: 月曜～金曜日 原則、土日祝日休みであるがイベントがあるときは開所あり

◆活動時間: 9:30～15:30



ラグマット作品



ラグマット制作の様子

○就労継続支援 B 型

働く場を提供すると共に、作業能力及び社会性の向上のために必要な活動を行っています

★活動内容★

◆生産販売:パン・ラスク・クッキー

受託作業:近隣の公共施設、高齢福祉施設等の清掃作業

地域製造業企業からの電気部品の組み立て作業

◆利用定員:15名

◆利用日 :月曜日～金曜日 原則、土日祝日休みであるがイベントがあるときは開所あり

◆活動時間:9:30～15:30



電気部品組み立て



ラスクづくり

○淡雲の誕生について教えてください！

平成 21 年に多機能型事業所としてスタートを切って以降、淡路島内の皆様に愛される目玉商品を作っているという当時のスタッフの思いから国産小麦、天然酵母を使用した長時間発酵・無添加のパン作りを始め、島内の観光施設や商業施設、福祉事業所等に商品を納めてまいりました。

令和 3 年1月、新たな看板商品として、神戸の老舗パン屋「イズベーカーリー」の監修の下、淡路島牛乳を使ったふんわりとした牛乳の甘味が感じられる食パン「淡雲」を開発。淡路島内を中心にピンクにラッピングした専用車で運搬し提携先 26 拠点で絶賛販売中です。

現在、菓子パンも含め 50 種類程度販売しているため「淡(あわ)雲(ぐも)」の生産量は限られていますが、地域の皆さんに愛される島のパン屋 Ayumi として提供できる品数を減らさぬよう頑張っています。

○最後に事業所の PR をお願いします。

「当事業所はこれからも地域での活動を通じて、皆様に親しまれる事業所として活動していきたいと思っております。ご愛顧のほどよろしくお願ひいたします。」



あゆみの部屋 外観



クッキーづくり



クッキー各種



淡雲パン♪

多機能型事業所あゆみの部屋

事業所サービスの種類

- ・生活介護 : 定員 25 名
- ・就労継続支援 B 型 : 定員 15 名

住所: 兵庫県洲本市五色町鮎原小山田 510-7

TEL:0799-32-0400

最後になりますが、取材にご協力いただきましたあゆみの部屋の皆さまありがとうございました。



ラッピングカーの前でクッキーの紹介をする
福西事務局長

編集後記

一昨年度より広報委員をさせていただいています第1松の園の寺西と申します。編集後記としては初めてになりますのでご挨拶と共に今後ともよろしくお願いたします。

次号は県知協ニュース第100号の記念号になりますのでボリュームアップした内容となります。県知協ロゴマークなども会員施設からデザインをいただいて広報活動に活用していくことを企画しています。募集時期については県知協よりご案内をいたしますのでたくさんのご応募をお待ちしています。HPにつきましても活用方法を検討していますのでご意見・ご要望等がありましたらお知らせください。

広報委員 寺西 良介

2023年11月より

ホームページがリニューアルしました

一般社団法人
兵庫県知的障害者施設協会

[協会について](#)

[組織について](#)

[施設・事業所紹介](#)

[求人案内](#)

[入会案内](#)

[県知協ニュース](#)

[会員専用ページ](#)



最新情報

- 2024.08.27 [お知らせ](#)
県知協 新任施設長等研修について
- 2024.07.11 [お知らせ](#)
令和6年度 全国グループホーム等研修会の開催について
- 2024.04.02 [お知らせ](#)
県知協ニュース 98号を発行いたしました
- 2024.03.26 [お知らせ](#)
2.16「福祉の集い」について
- 2024.03.22 [お知らせ](#)
兵庫県強度行動障害スーパーバイザー養成事業 拠点公募について

県知協に加盟している事業所の紹介、各地区、部会、委員会の主催・開催したイベントや研修予定、行政からのお知らせなど、加盟事業所を対象とした資料のダウンロードや実施したアンケート集計の報告などを公開、運用しています。

今後は各部会、委員会ページの充実や求人案内の運用調整などホームページの充実がんばってまいります!!

